研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 高次血管網の形成を制御する微小環境ダイナミクス

2. 個人研究者名

木戸屋 浩康（福井大学学術研究院医学系部門 教授）

3. 事後評価結果

本研究課題では、高次構造として形成された血管群が組織中を移動する現象を「血管束移動」と名付け、この血管束移動に血管制御好中球と名付けた好中球サブセットの関与を見出した。また、それらの細胞群から分泌される血管束移動を誘導する分子の同定まで達成している。組織内で血管制御好中球が血管束移動を誘導する一連の過程を明示するために、血管制御好中球を可視化するイメージングマウスを作成して取り組んだ血管束移動のメカニズム解明において、大きな研究成果が上がっており、高く評価される。さらに、既存の血管から新たな血管の芽が生じる血管発芽における組織微小環境の役割に着目し、種々の検討を行う中で、血管発芽の場には適度な硬さが必要であることを *in vitro* での解析から見出し、*in vivo* でも証明を進めている。

これらの研究成果は、血管形成とその制御機構の研究に新たな展開をもたらすものであり、今後、基礎生物学のみならず、腫瘍環境における血管形成機構の解明や治療薬の開発等、医学・創薬領域への展開も期待される。

本研究者は本さきがけ研究領域に加わる前から高い評価を受けていたが、本さきがけ研究においても成果を着実に積み上げた。福井大学学術研究院医学系部門の教授に着任し、独立した研究室を運営することによって、これまで以上にオリジナリティーを発揮し、重要な生命科学の根本問題をかぎ分け、その解明に邁進することを期待する。